

青少年活動センターのページ

職員のスキルアップに力を入れて

京都市ユースサービス協会は1988（昭和63）年に財団発足以来、ユースサービス協会の理念を基に施設運営や事業展開を図ってきました。そこには、ユースワーカーと呼ぶ専門職員（以下、「ワーカー」と略）が関わっています。社会教育を学び、さまざまなボランティア経験をもって入職するワーカーもいますが、職に就いてからも知識とスキルのブラッシュアップ、新しい経験や資格が必要になってきます。

青少年に関わるこの仕事は、協会発足当時からすると、内容が随分と変わってきています。

当初は、青少年をグループとか集団で扱うことが多く、グループ運営、自身のリーダーシップや仲間づくりの手法に焦点が当たっていました。研修の内容もグループワークやリーダーシップ理論、レクリエーションのスキルなど集団を扱うことに重点が置かれていました。2001（平成13）年に青少年活動センターと名称を変更する頃には、青少年個人にも焦点があ

り、居場所というキーワードも出はじめ、カウンセリングマインドや相談スキルに注目があたり始めました。2006（平成18）年にサポートステーション、2010（平成22）年から子ども若者支援業務の受託とともに、より一層個人への支援の機会も多くなり、研修内容も個人のサポート、支援の方向へと変わっていききました。

当協会において、どのような研修が行われているかを次に紹介します。

○新採研修

入職してすぐに受ける研修です。社会人として、新人ワーカーとしての心構えや各現場の業務内容、協会の歴史について学びます。そして、相談業務の基本である傾聴について具体的にロールプレイを通し、その技法を学びます。

○若手研修

入職4年目までの数名がひとグループとなって、「自己理解」「支援的な関わり」「グループワーク」などのテーマを選ばし、グループを運営しながら学んでいきます。

○ポスト若手・中堅研修

各自で自己研修目標を定め、取り組んでいきます。

○シニア研修、マネジメント研修

管理職研修及び財務・総務や組織運営に関する研修ですが、今後本格的な取り組みに力を入れます。

○外部研修

ワーカー一人ひとりが業務や興味の方向性を考え、研修希望先を申告します。それに基づき、研修プロジェクトで業務への必要度を勘案し、補助額を決めて推薦しています。今年度は、下表のような研修を行っています。

社会人枠での大学院での学び	立命館大学大学院応用人間科学研究科修士課程 龍谷大学大学院（NPO・地方行政研究コース） など
学会への参加	日本臨床発達心理士会学会、社会教育学会全国研究会 など
資格の取得	精神保健福祉士、キャリア・コンサルタント、思春期保健相談士、ボランティアコーディネーション力検定 など



若手研修（相談業務）



新採研修

その他、内閣府が主催する欧米のユースワークを学ぶための海外研修や、ひきこもり支援やさまざまな障がいに関わる、子ども若者総合支援事業に絡む研修会が開催されます。

私たちはプロフェッショナルなワーカーとして青少年に関わっていますが、ワーカーの切り口は広く、地域やさまざまなボランティアグループにおいてボランティアユースワーカーも存在します。当協会では、「ワーカーらしい考え方」ができる人材を育成するユースワーカー養成講座を毎年8月と3月に開講しています。全国的にも珍しい専門講座で、最近の参加者は京都にと

どまらず、東海地方や関東からもお越しいただいています。8月にその基礎講座を開催することになっています。

（研修プロジェクトリーダー 岡本俊則）

多様な視点で意見交換

全体研修会は京都市ユースサービス協会の全ての職員が集まる年一回の機会です。全員の顔合わせとともに協会についての共通認識をもつことを目的として、グループ討議を中心に運営しています。今年のテーマは「若者が生きやすい社会作りのためにユースサービスができること」で、これまでの活動の何が有効でどんな役割を果たすのかを話し合いました。

グループでは多様な視点から議論されました。職員のキャリア形成を支える仕組みをどう作るか。若者たちのメディアとの関わり方は変化しているのか。規範意識が低い若者との関わり方の試行錯誤。外郭団体として何を社会に発信するのか。地域社会で若者がつながりを見つける方策は。個人の経験の蓄積をチームで活かす方法。短い時間でしたが、熱心な討議を通じて、相当にキャリアの差がある中堅、若手の職員たちが、それぞれの考えを深めるきっかけになったのではないかと思います。

（25年度研修プロジェクト 大場孝弘）



全体研修会